

寒さを楽しむ冬

冬を、避けるものではなく、
味わい、楽しみ尽くしたい。

旅の行き先は、雪に包まれた山形。

凜と澄んだ光が、白銀の世界を照らす。

ロープウェイに乗って、雲の上の世界へ。待っていたのは、蔵王の樹氷。

氷と雪のボールをまとった、自然が生み出すアート。

スノーモンスターと呼ばれるその姿は、厳しさの中にしか現れない、冬からの贈りものだ。

針葉樹が生える植生と、蔵王連峰の気候が作り出した奇跡の光景を目に焼き付ける。

翌日は、冬の山寺へ向かう。

雪に包まれた石段は音を吸い込み、歩を進めるほどに静けさが深まっていく。

白に縁取られたお堂や岩肌は、まるで水墨画の中を歩いているかのよう。

一段一段登るごとに、余計な思考が削ぎ落とされ、心が澄んでいくのを感じる。

見晴らしの先に広がる雪の山々は、厳しくも美しい。

冷えた体を、湯けむりが迎えてくれる。

雪景色を眺めながら浸かる温泉は、冬の山形ならではの時間。

蔵王温泉にある善七乃湯には、七福神にちなんだ露天風呂があるとか。

中でも、笑顔と福を象徴する布袋尊の湯、長寿と幸福を司る福祿寿の湯は、
雪に包まれた景色を間近に感じられる。

そのほかにも、趣の異なる七つの湯が用意され、湯船を変えるごとに、自然の表情も少しずつ変わって
いく。冷え切った体は、ゆっくりとほどけ、寒さは、ここでやさしさに変わる。

街へ戻ると、江戸から続く初市の賑わいが広がっている。

新しい年の無事と商売繁盛を願い、人々が集ってきた冬の市。

だんご木に託すのは、豊作と家内安全。

初詣には、一年の甘い始まりを願う思いが込められている。

あつあつのどんどん焼きを頬張ると、冷えた指先まで、じんわりと温もりが伝わってくる。

寒いからこそ、人は外へ出て、声を交わす。

冬は、人を引きこもらせる季節ではなく、人と人を近づける季節でもある。

静かな白さの中に、確かなあたたかさが息づいている。

夜。空を見上げると、冬の花火が咲く。

空を見上げ、

「今年はどんな一年になるのかな」

と想いを馳せる。

寒さの中に灯るあたたかな光が、

冬の山形を忘れられない場所にする。



厳冬が生み出す
奇跡の景色

蔵王の樹氷

なんといっても見てほしいのが蔵王の樹氷です。樹氷は、ただ雪が積もってできるものではありません。氷点下の気温の中、強い季節風が運ぶ雪雲が、針葉樹に過冷却水滴を吹き付けることで生まれます。凍らずに漂っていた水滴が枝に触れた瞬間に凍り、それが何度も重なり合うことで、やがて木全体を覆う巨大な氷の塊へと育っていきます。蔵王連峰の地形と気候、そして針葉樹林という条件がそろって、はじめて現れるこの光景は、世界的にも珍しい自然現象です。迫力ある樹氷は、夜に見てもらうのもおすすめ。樹氷幻想回廊ツアーという夜のツアーも開催しているので、ぜひ参加してみてください！「スノーモンスター」と呼ばれるその姿は、厳しい冬があるからこそ出会える、冬からの贈り物です。

〒990-2301 山形県山形市蔵王温泉



冬の空に咲く光

ウィンターフェスティバル

夜、澄んだ空気の中で、霞城公園の空に花火が打ち上がるのが、ウィンターフェスティバル。冷たく澄んだ空に広がる光は、より鮮やかに心に残ります。「今年はどうな一年になるのだろう」そんな思いを胸に、冬の夜を締めくくります。

〒990-0826 山形県山形市霞城町1



山形のソウルフード 「だんご焼」

薄く焼いた生地、海苔や魚肉ソーセージなどを乗せ、箸にくるくると巻いたB級グルメ。山形のソウルフードのひとつです。食べ歩きにもぴったりのこの味を楽しみながら、山形という土地の魅力をより深く感じてみませんか。

冬の参道 山寺

冬の山寺もおすすめの絶景。雪に包まれた石段は音を吸い込み、歩みを進めるほどに周囲の気配が遠ざかっていきます。白に縁取られたお堂や岩肌は、まるで水墨画の中を歩いているかのようです。一段一段登るごとに、余計な思考が削ぎ落とされ、心が静かに整っていくのを感じられます。見晴らしの先に広がる雪の山々は、厳しくも美しく、冬の山寺ならではの表情を見せてくれます。

〒999-3301 山形県山形市山寺



静けさに包まれる

善七乃湯

冷えた体を迎えてくれるのが、蔵王温泉です。善七乃湯には、七福神にちなんだ七つの露天風呂があります。笑顔と福を象徴する布袋尊の湯、長寿と幸福を司る福祿寿の湯をはじめ、寿老人、大黒天、恵比寿、弁財天、毘沙門天の湯まで、それぞれ趣の異なる湯船が用意されています。湯船を変えるごとに、眺める雪景色や空気の表情も変わり、自然と向き合う時間が深まっています。冷え切った体はゆっくりとほどけ、寒さは、ここでやさしさへと変わっていきます。ちなみに「善七乃湯」には、巨大なブランコも。アルプス気分ブランコに乗りながら写真撮影もおすすめ！



七つの湯が迎える
冬のぬくもり

初市

街へ戻ると、江戸時代から続く山形市の初市の賑わいが広がります。初市は、城下町として栄えた山形で、年の始まりに市神を祀り、商売繁盛や無病息災を願って始まった伝統行事です。だんご木には、豊作と家内安全への願いが込められ、初詣は、一年の甘い始まりを願う縁起物。あつあつのだんご焼きを頬張ると、冷えた指先までじんわりと温もりが伝わってきます。寒いからこそ、人は外へ出て、声を交わす。冬は、人と人を近づける季節でもあります。毎年1月10日開催

十日町角～七日町 国道112号

江戸から続く
冬の賑わい

